会 議 要 旨

会議の名称	第194回川越市都市計画審議会
開催日時	令和6年11月22日（金） 午後2時00分開会・午後3時30分閉会
開催場所	川越市中央公民館 3階軽体育室
議長氏名	会長 尾崎 晴男
出席者（委員）氏名 （人数）	竹澤 穰治、町田 明美、関口 和裕、尾崎 晴男、 小瀬 博之、小林 範子、小高 浩行、嶋田 弘二、 倉嶋 真史、栗原 瑞治、川口 知子、高橋 剛、 飯島 希、渋谷 武、秋山 修志、永濱 典子、 栗山 茂樹、阪口 文雄 （18名）
欠席者（委員）氏名 （人数）	青木 敏子、新井 昌行（2名）
事務局職員	都市計画部長、都市計画課職員7名
説明のための出席者	都市計画課職員3名
会議次第	1 開会 2 議題 議案第1号 川越都市計画生産緑地地区の変更について 議案第2号 特定生産緑地（川越市）の指定について 第188回議案第3号 川越市立地適正化計画の改定について 3 その他 4 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 川越市都市計画審議会委員名簿 ・ 議案第1号 川越都市計画生産緑地地区の変更について ・ 議案第2号 特定生産緑地（川越市）の指定について ・ 議案3-1 川越市立地適正化計画（改訂原案） ・ 議案3-2 都市計画審議会（R6.8.1）以降に修正した主な更新箇所一覧 ・ 議案3-3 令和6年度川越市都市計画審議会（R6.5.23）意見と対応 ・ 議案3-4 「川越市立地適正化計画（改訂原案）に対する意見募集の結果について・川越市都市計画審議会資料（参考資料）

議 事 の 経 過

1 開会

2 議題

(1) 議案第 1 号 川越都市計画生産緑地地区の変更について

(2) 議案第 2 号 特定生産緑地 (川越市) の指定について

諮問書朗読

議案説明

質疑

(委員) 議案第 1 号、議案第 2 号の生産緑地は共に農地として耕作しているか、もしくは保全管理しているということによろしいか。議案第 1 号については農業委員会に現地確認の依頼があったが、議案第 2 号は依頼が無かったと記憶しているので、確認した。

(担当課) 生産緑地の指定の際には、農業委員会に農地の確認依頼をしている。特定生産緑地については、もともと生産緑地に指定されていた地区であるので、既に現地確認は済んでいるという前提で指定している。

(委員) 議案第 1 号について、生産緑地の解除・追加があるが、川越市でも解除の目的、追加の理由を把握しているのか。

(担当課) 解除については、30年満期に伴って解除し、その後、土地利用を検討している方がほとんどである。追加についての細かい理由は把握できていないが、農地を耕作している地権者の意向に沿うように追加指定している状況である。

(委員) 生産緑地は一旦解除すると再指定はできないのか。

(担当課) 基本的には、再指定できるとして進めている。平成29年の生産緑地法改正以前は、市街化区域内農地は宅地化すべき農地ということで宅地化を進めていた。しかし、改正後は都市にあるべき農地として保全の方向に向かっていて、川越市でもそれを汲んで再指定を進めている。当然ながら理由については精査し、例えば故障が理由で解除した場合に、同じ人で再指定というのは難しいが、理由が付けば再指定を進めている。

議 事 の 経 過

(委員) 土地の所有者が亡くなって代が替わるというのも解除の理由になると思うが、その背景については把握しているのか。

(担当課) 背景については把握できていない。

(委員) 先ほど追加に関して確認したが、耕作されていたのであれば、もともと生産緑地になっていてもおかしくないと思うが、なぜここで追加されたのか。先ほどの理由では分からなかったので、再度確認する。

(担当課) 把握している中では、代替わりをした時に相続した方も続けるということで、追加指定したというのがある。先代は30年の縛りを懸念して指定しなかったというのが一部あるようだ。

(委員) 生産緑地、特定生産緑地は、全体からすると減っていくとのことであった。減ることに関して、特に駅周辺では、川越市としても駐輪場に活用するなど、市街化農地の活用の促進を図ってきた部分もあると思う。この生産緑地の変更に関しては、川越市として計画や見通しなど、何か考えているものはあるのか。

(担当課) 現段階では、具体的な例はないが、平成4年指定の生産緑地の30年満期にあたる令和4年があったが、次に特定生産緑地が満期を迎える令和14年に向けて、庁内で買い取りを検討できないか、農政部局や公園部局と連携をとり、担当レベルで打ち合わせをし、認識の共有に努めている。

審議結果：原案のとおり答申

(3) 第188回議案第3号 川越市立地適正化計画の改定について

議案説明

質疑

(委員) 原案のP.120の標高図について、5m刻みの色分けに修正され、川越市の地形や標高が分かりやすくなったと思う。

しかし、私は5月の審議会で0mから5mを色分けできるかという問い掛けをしたが、今回10m未満でくくられている。川越

議 事 の 経 過

の一番低いところを示すことで、災害との関係、居住誘導等の現実的な判断がより可能になるのではないかと思う。

今回、5 m未満ではなく、10 m未満にした理由が知りたい。

(担当課) 出された意見について、私どもの方で正確につかむことができていなかった。10 m未満を5 m刻みで表示できるか否か、確認する。

(委員) 大きく分けて二つある。一つは、P. 6 の主な関連計画等に、環境分野で「川越市地球温暖化対策実行計画」が載っているが、ここに「川越市環境基本計画」と「川越市緑の基本計画」を追加した方がよい。実際にはP. 181 の地震8のハード対策の関連計画等にも「川越市環境基本計画及び川越市緑の基本計画」と書かれている。また、P. 108 に「田園と調和した生活環境の維持」の関連計画等に「川越市都市計画マスタープラン」と記載があるが、ここも川越市緑の基本計画か川越市環境基本計画もしくは両方が関わっていると思う。

もう一点が、洪水・内水に関する取組 P. 175～177 の洪水のハード対策で、グリーンインフラの概念を織り込んだ方がよいと思う。P. 176 の洪水6には浸透側溝や雨水浸透柵、透水性舗装等、どちらかというとな全体的にハード対策は、人工物の整備に偏っていると思う。

また、P. 180 の地震5に「公園・緑地等の整備・保全」と記載があり、地震では書かれているので、もう少し洪水においても公園・緑地等の整備を関連付けた方がよいと考える。

(担当課) まずP. 6 とP. 108 の関連計画等に「川越市環境基本計画」、「川越市緑の基本計画」を追加することについては、具体的な関連計画として他のページにも記載があるので、追加の方向で考える。

P. 175～177 の洪水・内水に関する取組のところで、グリーンインフラを織り込むことについて、ご指摘のとおりこの箇所は、堤防等の整備など、人工物の整備の記載が比較的多いと思う。その中で、例えば農地の保全等の視点が不足しているので、文言については検討するが、織り込む方向で考える。

また、洪水の取組で、公園・緑地等の整備・保全を関連付ける

議 事 の 経 過

ことについても検討する。

(委員) P. 87「水害等に向けた体制構築」の3行目について、「また、気候変化によるゲリラ豪雨の多発」と表記しているが、「気候変化」という言葉に引っかかった。SDGsの13番も気候変動と書いてある。環境や温暖化の業界では気候変動ということで統一していると思うので、「気候変動」に変更した方がよい。

またその2行下について、「平成26年に内水ハザードマップを発行し、対策の周知に努めています」と表記しているが、その対策が、何の対策の周知なのか分からない。ハザードマップを見てみると、危険度の周知はあるが、対策の周知はハザードマップのどこに書いてあるのか見当たらなかったため、「ハザードマップを発行し、危険地域の周知に努めている」であれば、合致すると思う。

(担当課) まず、気候変動については、修正する方向で検討する。

もう一つ、ハザードマップを用いた対策の周知については、確かにハザードマップは危険を周知するという役割があるが、内容の中には、避難時の心得、立ち退き避難や屋内安全確保の方法、避難行動の判定フロー、マイタイムラインの作成方法などの情報も盛り込まれているので、対策の周知、促しというものが行われていると認識している。ただ、まず危険の周知を図るという視点も重要であると思うので、記載について検討する。

(委員) P. 40の渋滞区間の④について、「県道川越坂戸毛呂山線」で合っているか。

(担当課) こちらの確認不足である。正しい表記に修正する。

審議結果：基本的な部分は改定原案のとおりとし、本日出た意見については検討し、必要に応じた修正をするという条件付で、市長に答申

3 その他

4 閉会